The University of Osaka
Institutional Knowledge Archive

Title	癌・成人病対策と母子保健
Author(s)	松本, 圭史
Citation	癌と人. 1996, 23, p. 5-7
Version Type	VoR
URL	https://hdl.handle.net/11094/23934
rights	
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

https://ir.library.osaka-u.ac.jp/

The University of Osaka

癌・成人病対策と母子保健

松　本　圭　史*

1．日本における死因の変化

現在の日本人の平均寿命は約80歳で，7割に近い人々は成人病で死亡しています。成人病による死亡をさらに分けてみますと，約3割の人々は癌で死亡し，3割よりやや多い人々は動脈硬化・高血圧に起因する心臓疾患（心筋梗塞など）と脳卒中（脳梗塞と脳出血）で死亡しています。終戦頃の約50年前の日本人の平均寿命は約60歳で，死因の1位は結核，2位は肺炎でした。当時は，細菌性感染症による若い時の死亡が多かったので平均寿命が低かったのです。戦後の抗生物質の発見・登場と社会環境の整備に伴う栄養などの改善によって若い人々の死因であった細菌性感染症が克服され，現在では大部分の人々が癌などの成人病で死亡するようになったのです。現在の日本人の平均寿命は男子は77歳，女子は83歳と世界でトップの座を占めています。若い時に死亡しないから，老人になって成人病で死亡しているのです。日本における保健・医療政策の成功によって若い人々の死亡が著減し，癌と動脈硬化・高血圧をクローズアップさせたのです。

2．癌・成人病対策

今後の日本では老人はますます増加しますので，増加と共にこれらの成人病はますます増加してゆくであろうと考えられます。また，上述の成人病と関連して，寝たきり老人，痴呆症，骨粗鬆症，骨折なども増加してゆくでしょう。したがって，これらの成人病に対する対策は現在の日本にとっては緊急な重要課題であり，厚生省，日本医師会，大阪府，大阪府医師会などによる国をあげての成人病への努力がなされているのは当然であります。

最近の分子生物学の進歩は非常に著明であり，これを医学に応用して多くの疾患の病因が解明されてきました。みなさんも毎日の新聞紙上でご覧になっているものと考えます。この分子生物学の導入によって，長い間不明であった癌の本態も解明されてきました。正常細胞は必要な時だけに増殖しますが（例えば，骨折をおこすと骨がつながる迄増殖する），この時に増殖をひきおこす遺伝子が働いて増殖がおこり，必要性が消失すると遺伝子は作用しなくなります。癌細胞は正常細胞の増殖に関係する遺伝子の変異によって生じることが明らかになりました。この増殖に関係する遺伝子の変異によって，癌化した細胞は増殖をいつまでもつづけるように変化するのです。また，臨床で取り扱うような臨床癌が発生するためには，増殖に関連する遺伝子の変化が数種類蓄積することが必要であることも明らかにされたのです。癌は遺伝子の病気であり，この遺伝子の変化を10～30年にわたって蓄積して発生することが明らかになりました。それでは近い将来に癌は克服されるのでしょうか？以下に述べる最近の研究によって，そのようなことはないであろうと考えられています。老人になると，長年にわたって癌性の遺伝子変化を蓄積してきた前癌細胞があちこちに生じ，これらが全身に前癌細胞の小集団を作っているのです。したがって，一つの癌（例えば咽頭癌）を最新の医療で早期に発見して治して

＊大阪癌研究会理事，大阪府立母子保健総合医療センター総長，大阪大学名誉教授

も，次々と新しい癌腫瘤（例えば肺癌・食道癌）が発生してくるのです。煙草によって発生した咽頭癌を克服した人々は，肺癌や食道癌のハイリスクグループに入ることは当然なのです。いくら分子生物学や癌治療学が進歩しても，老人がますます増加する我が国では癌死亡は減少しないでしょう。若し万一癌が克服されたとしても，必ず死亡する運命を持っている人々は他の成人病（例えば動脈硬化・高血圧）で死亡するでしょう。新しいやわらかいゴムのホースは，古くなると硬くなって破れたりつまったりします。動脈も同じことで，古くなりますと硬くなって破れたり（脳出血）つまったり（脳梗塞，心筋梗塞）します。これを克服する方法も見つかっていないし，将来もむつかしいと考えられています。動脈硬化・高血圧を克服することもとても困難であると考えられます。我が国で，成人病，成人病死が著明に減少することは考えられないのです。

3．母子保健対策

現在は少産・少子の時代であるといわれています。戦後の一番多産の時期には１人の女性が４人の子どもを産みましたが，現在では1.5人と著減しているのです。現在の人口を保つためには2.08人の出産が必要ですので，若い日本人はどんどん減少しています。現在は出産数，出産率が約半分に減少しているので，母と子の健康を守るため（母子保健）に使用してきた費用，人材の半分を癌対策などの成人病対策に廻せばよいという意見も生じています。一見合理的でありますが，以下に述べる理由で避けるべきであると考えます。現在の日本の繁栄は種々の要因によって築かれましたが，その最大のものはよい教育を受けた優秀な多くの日本人の活躍によってなされました。従って，将来の日本の繁栄を支える人的資源が著明に減少してきていることは大問題です。たとえ，日本の人口は狭い国土から考えると過剰であるという意見を受け入れても，若い人口の著明な急激な減少は多くの困難なことをひきおこします。急激で著明な若い人口の減少は防ぐ必要があります。確かに成人病対策は現在の日本にとって緊急な現実的に必要な大きい問題ですが，高い視野から日本の将来を考えると母子保健の更なき充実はもっと重要な問題ではないかと考えられるのです。

現在の進歩した医学・医療を活用し，立派な周産期・子ども病院を建設し，母子保健従事者の高い技術と情熱をもって少ない子どもをすべて立派に育てる必要があります。最近の周産期医療の進歩と専門病院の建設によって，日本における新生児死亡率は１／10となり，1000人中２～３人となっています。最近の急激な医療の進歩によって高度の技術を持っている専門病院では700ｇ以上の子どもは大部分が立派に育つようになっているのです。しかし，まだ死亡とか脳障害が生じることがあるので，これらを克服するために研究をつづける必要もあります。これらには多くの費用を必要とします。さらに，ヒトの心の問題として子ども虐待が増加してきてクローズアップされています。動物でさえ親が子どもを大切に育てるのに，母親が子どもを虐待して骨折をおこしたり死亡させたりします。放置して死亡させることもあります。さらに，父親が子どもに性的虐待をひきおこしたりするのです。子育てを助ける祖母などが同居していないとか，いろいろの社会環境の変化によって子ども虐待は増加していると考えられています。親の情熱と努力によってやっと可能になる子育てですが，その親が子どもを虐待するわけですから，この子ども虐待に対応して立派な子どもを育てることはとても大変なことです。アメリカやヨーロッパでは子ども虐待は日本の10倍以上であり，大きな社会問題になり，大きい費用が注ぎ込まれています。少ない子どもをすべて立派に育てるためには，以上に少しの例を示しましたが，多くの人材と費用が必要なのです。さらに重要なことは，以上のような

優れた母子医療病院によるすばらしい母子医療体制を確立し，さらに子育てに有利ないろいろな福祉政策を施行して，社会に出て活動する現在の若い女性にも多くの子どもを持つ意欲を起させるような社会環境，ムードを作る必要があることです。我々の祖先は，貧困の時代にすべての日本人に教育を普及させました。この我々の祖先の英知と決断によって，立派な教育をうけた多くの日本人がつくられ，日本の今日の繁栄が築かれたと考えられます。現在の日本では，増加してきた，ますます増加してゆく成人病に対する対策は緊急な大切な課題です。しかし，我々はこの成人病対策に汲々としているだけでなく，今こそ現在の日本人の英知で母子保健もますます充実させる必要があるのです。

健　康　訓

五十や六十花なら蕾　　七十八十は働きざかり
九十になって迎えが来たら　　百まで待てと追い返せ

老人健康と長寿十則

一、少　肉　多　菜　　一、少　塩　多　酢
一、少　糖　多　果　　一、少　食　多　齟
一、少　煩　多　眠　　一、少　怒　多　笑
一、少　言　多　行　　一、少　慾　多　施
一、少　衣　多　浴　　一、少　車　多　歩

京都大徳寺内大仙院住職
尾関宗園師作